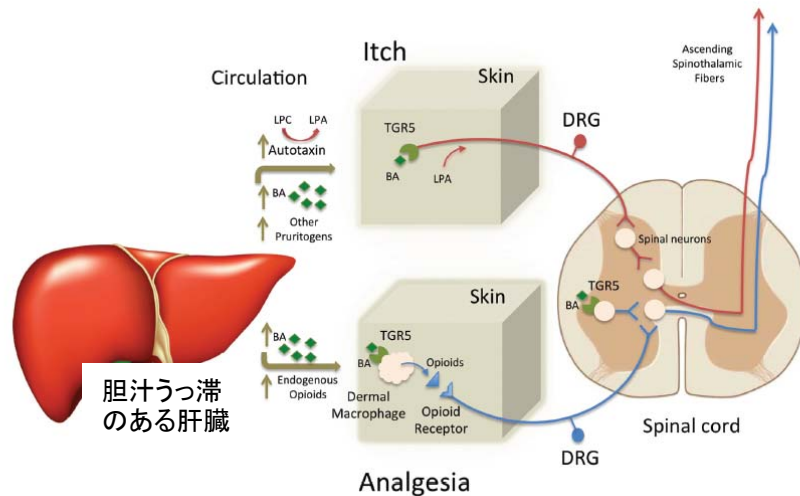


# 胆汁うっ滞にともなう痒みの解明機序

順天堂大学大学院医学研究科 消化器内科学講座 北村 庸雄



HEPATOLOGY, Vol. 59, No. 4, 2014

- 痒み (itch) は皮膚の病気で起こるばかりでなく、内臓の異常の表われとしてみられることもあり、その代表的なものが肝疾患です。
- しかし、肝臓が悪い方の全てが痒みを訴える訳ではなく、肝臓で作られ腸に排泄される胆汁 (消化液) の流れが悪くなったとき (胆汁うっ滞) に痒みが出現すると考えられています。
- 言い換えるなら、肝臓が悪くなくても膵臓や胆管 (胆汁の流れ道) の異常で痒みが出現することも珍しくありません (黄疸で気付かれる胆管がんや膵がんがその例です)。
- 胆汁うっ滞にともなう痒み自体は古くから知られている事実ですが、原因については殆ど明らかにされておらず、その最大の理由は適当な動物実験モデルが存在しなかったことにあります。

- 我々はラットで胆汁うっ滞を作り、右の図のような装置で痒みの原因を調べています。
- ラットが体を掻く動作を撮影しコンピュータを用い解析することで、痒みの状態を判断することができます。
- 上の図は、これまで胆汁うっ滞による痒みの原因と考えられてきた胆汁酸 (BA) や、最近注目されている autotaxin/LPA の神経との関係を表しています。
- 動物実験モデルが確立することで、痒みのみならず胆汁うっ滞により生じる様々な病態の解明が可能になることを期待しています。

